

矢板が主んだ偉人⑤

矢板武と 渋沢栄一

いよいよ矢板武の登場です。その功績については、既に周知のことと思われまますので、略させていただきます。

今回は、政財界に幅広い人脈を持っていた中で、特に「渋沢栄一」との交友関係を紹介いたします。

渋沢栄一は、「日本資本主義の父」とも呼ばれた大実業家です。それは生涯を通して関わった会社や、約五百社にも及んだということによるものです。現在の日本を代表する会社のほとんどと言って過言も良いでしょう。その渋沢栄一が、実は矢板武と交友があったことはあまり知られておりません。

二人の出会い、明治二十年頃で、当時矢板武は県議会議員として活躍中でした。一方の渋沢栄一は、宇都宮に第一国立銀行の支店を開設するにあたって

苦戦中でした。そこで頼ったのが矢板武でした。その時の書状（下段の読下し文参照）が残されていますが、渋沢栄一は九歳年下の矢板武に対して「貴兄」と呼び、「何とかお骨折りを」と必死のお願いをしていました。

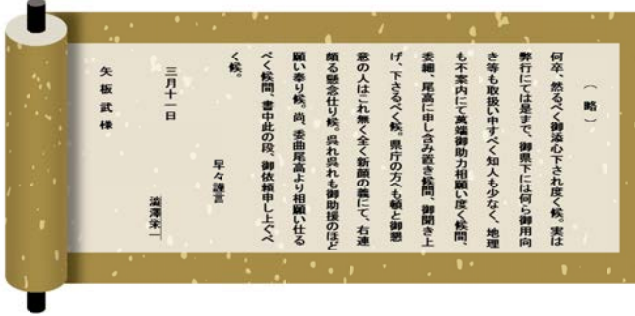
これが奏功したのでしようか、無事支店の開設となりました。

以後、二人の交友は長年にわたって続けられました。そればかりか、渋沢栄一は矢板武の娘（エツ）とその跡取り娘（キミ）の二代にわたって、仲人を引き受けているのでした。

矢板武氏来り、孫女縁談ノ事ニ付……と記されていきます。さて、ここからは市民の皆様へのお願いです。来年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」は、この渋沢栄一を主

デルにしたものです。そこでそのドラマの中に、矢板武を出演させようではありませんか！脚本家の大森美香さんも、脚本を仕上げている様子です。このことが実現すれば、矢板市のみならず本県のイメージアップにつながることでしよう。

(T・S)



スポーツの楽しさを届ける

スポーツ推進委員会 会長 宮崎博さん

今回のスポーツシリーズは、スポーツ推進委員会をご紹介します。スポーツ推進委員会の会長に就き八年が経過した宮崎博さんから、推進委員の活動やニュースポーツの話などを伺ってきました。



など多くのニュースポーツが楽しめます。昔と今のスポーツの違いは昔は勝負を意識してスポーツをしていた人が多いですが、今のスポーツは「自分が楽しめる」「健康維持のため」と団体より個人で活躍できるスポーツの方が人気があります。同じようなスポーツに見えますが、団体種目のゲートボールより個人性の強いグラウンド・ゴルフが人気なのもこの理由だと思えます。

今私たちが広めているニュースポーツは、勝負性よりもレクリエーションの一つとして楽しめるスポーツで、グラウンド・ゴルフのように既存のスポーツを年齢や体力、技術などに応じて変化させたものになります。

●スポーツ推進委員とは
今から約六十年前にできた「体育指導員」が元となっています。一国民一スポーツの考えのもとにできた全国的な組織です。私は約二十年前に区長から推薦を受け体育指導員となりました。当初は二十三人の指導員がいましたが、現在は十六人です。

●どんな活動をしていますか
毎年五月～十月までの間に「健康ひろば」を二十五回開催しています。また希望者の方に対して「出前講座」の講習を実施しています。どちらも「ニュースポーツ」を中心に行っています。特に健康ひろばでは「さいかつボール」や「ラダーゲッター」

健康ひろば（広報やいた）二月号掲載）や出前講座ではさまざまなニュースポーツの体験ができますので、ぜひご参加ください。ご連絡お待ちしております。

(Y・S)

(編集後記) 全国高校サッカー選手権大会の準決勝戦での矢板中央高校の活躍に矢板市民はテレビに釘づけになって応援したことでしょう。決勝進出はなりませんでしたが、サッカー少年、矢板市民は大きな夢と感動をいただきました。(M・K)